

## 2 学校における不登校児童生徒への支援

### (1) 小・中学校

担任、学年、養護教諭、管理職、部活顧問、教育相談担当など、全教職員で支援しています。また、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、教育支援センター、民間施設等と連携し、本人や保護者へ寄り添いながら支援しています。



中学校 担任

児童生徒が出している SOS のサインに早めに気づき、その要因について情報を集めることが重要だと考えています。

そのため、教職員で情報を共有することはもちろんですが、保護者からの情報はとても重要です。お聴きした情報をもとに、学校では支援チームを作り対応していきます。

いきなりクラスの教室に入るのはハードルが高い児童生徒には、別室登校というかたちで、教室以外の別室に居場所を作り、支援をしています。

保健室は、いつでも、誰でも、気軽に相談できる場所です。

また、養護教諭が専門性を生かして、児童生徒のからだの不調の様子から、いじめや不登校などの問題を抱えてサインを発していることにいち早く気づいて、学校内や地域の関係機関との連携で、コーディネーター的な役割を果たしていきます。



養護教諭

#### ■ スクールカウンセラー（SC）

公立小中学校・義務教育学校・中等教育学校及び県立高等学校に定期的に勤務し、児童生徒のみなさんはもちろん、保護者の方々の御相談をお受けして、一緒に解決方法を考えていきます。

#### SC は、心理の専門家として心の支援を行っています

スクールカウンセラーは、公立小中学校・県立高等学校等に定期的に勤務し、心理の専門家として児童生徒や保護者に寄り添った心の支援を行っています。カウンセリングを通して、子育てのことや親子の向き合い方、友人関係や学校への行きづらさなどの悩み事の解決方法を相談者と一緒に考えます。

面接結果をもとに、学校での対応について先生方と話し合いながら助言したり、必要に応じてスクールソーシャルワーカーなどと連携して支援したりしています。

また、ストレスとの付き合い方や人との関わりに必要なスキルを身に付ける授業を通して、児童生徒が安心して学校生活を送ることができるような予防的支援も行っています。

スクールカウンセラー Aさん

#### ■ スクールソーシャルワーカー（SSW）

いじめや不登校、その他の学校でのいろいろな困りごとを抱えている子どもと家族を支え、子どもが安心して学校生活を送れる環境づくりに先生と協力して取り組んだり、生活環境を改善するために必要な福祉サービスを提案したりします。

## SSWは、安心できる環境、つながりを大切にしています

困ったときに「困っています」と言えずにいる子どもがいます。また「対応の仕方に悩む」「表現に困る」など、自分自身がどのようにするのが良いのか分からずにいる子どもがいます。何となく学校に行けなくなってしまった。そんな時、先生も同じように困っています。なぜ学校に行けないのか、言葉で表現できないのが、子ども時代の特徴だと思います。スクールソーシャルワーカー（SSW）は、その子の成長過程に合わせて、家庭環境とも調和をとりながら、学校（先生）への橋渡しをしています。

子ども時代を健やかに過ごせるように、本人の気持ちを大事にしながら家庭訪問を行ったり学校で面談をしたり、寄り添いながら、生徒、保護者、学校など、本人を取り巻く環境を調整しながら問題解決に向かっていきます。私たちは、「安心できる場」「環境」「つながりの継続」を重視しています。

スクールソーシャルワーカー 相崎ゆ美さん

### ■ 教育支援センター（適応指導教室）

集団生活への支援、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的な生活習慣の改善等のための相談や支援を行っています。学校と連携をし、学校行事を生かした登校支援を行ったり、進路に関する情報交換を行ったりすることもあります。

また、子どもたちの学校外での居場所や学び場として、フリースクール等と連携しています。学校では、不登校を問題行動ととらえず、教育支援センターやいわゆるフリースクール等とも連携をしながら、支援していきたいと考えています。

## 学校復帰や社会的自立を応援しています

教育支援センターでは、小中学校でなかなか学校に足が向かない児童生徒に対して、基本的な生活・学習習慣の定着のための相談や支援などを行いながら、学校復帰や社会的自立を応援しています。

児童生徒は、一人一人の実態に合わせたゆるやかな時間割にそって、規則正しい生活を送っています。午前中は学習に取り組み、午後は、スポーツ・創作・農作業・施設見学等の体験活動に取り組んでいます。

また、学校と連携し、学校行事を生かした登校支援を行ったり、進路に関する情報交換を行ったりすることもあります。

教育支援センター支援員 Bさん

### ■ 教育委員会等での相談窓口

不登校で悩んでいる児童や生徒、保護者からの相談を受けています。

24時間体制で相談を受け付けているところもあります。心配なことがある場合は、一人で悩まずに、相談することが大切です。

注）相談窓口の連絡先は、5資料編「支援機関連絡先一覧」を御覧ください。

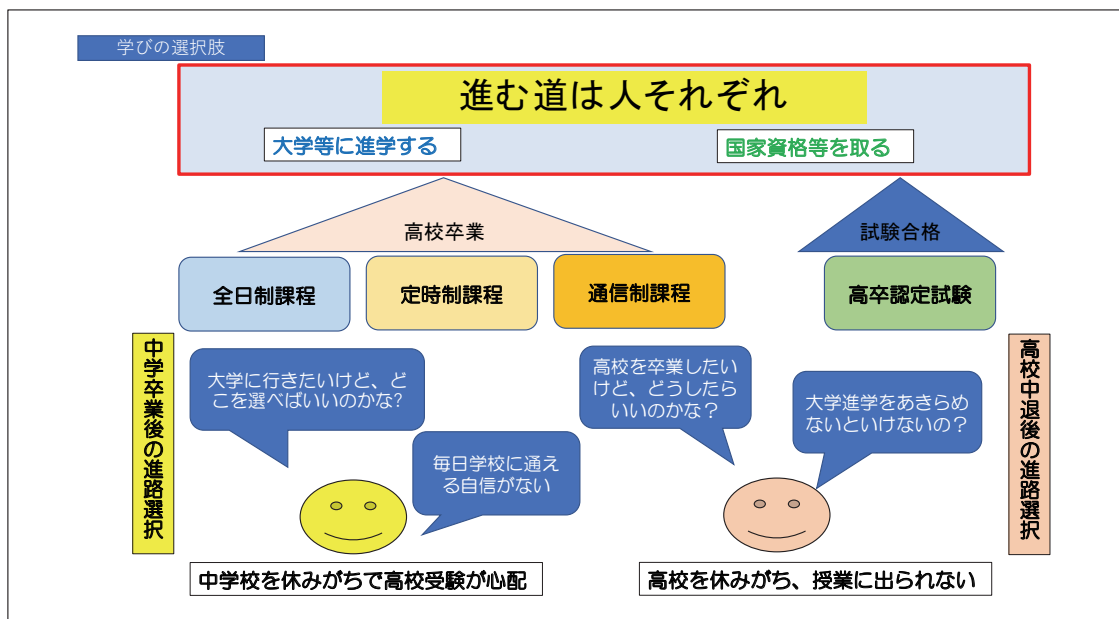
### ■ 中学3年生の進路指導

中学校の不登校では、高校進学を含めた将来への「不安」が生まれてきます。

不登校生徒の進路指導では、『高校への進学』や『就職』等、本人や保護者の気持ちを丁寧に聞きながら、進路指導や支援を行います。

『高校への進学』では、「フレックススクール」「定時制」「通信制」を含め、県内、県外の高校を進路先として選択する生徒がほとんどです。

進学にあたっては、自分に合った学びの環境を考えていくことが大切です。



子ども・若者の自立支援ガイド「学び編」では、さまざまな体験談を紹介しています。

[https://www.pref.gunma.jp/O3/bv01\\_00145.html](https://www.pref.gunma.jp/O3/bv01_00145.html)

## (2) 高等学校

高校生の不登校相談では、どこで、誰が、どのような対応をしているのでしょうか。

### ■ 学校内

担任の先生や養護教諭など、身近な先生があなたの相談に乗ってくれます。必要に応じて、県内全ての県立高等学校（全日制・定時制・通信制）・中等教育学校に定期的に勤務しているスクールカウンセラーも、生徒や保護者の不安や悩みの相談に乗ってくれますので、気軽に相談してみてください。

また、スクールソーシャルワーカーに来校してもらい、生活環境の改善に向けた福祉サービスなどの助言を受けることもできます。

### ■ 学校外

群馬県教育委員会が行っている「ぐんま高校生オンライン相談」では、生徒にとって身近な通信手段であるLINEを活用した相談を受け付けています。

また、群馬県総合教育センター子ども教育相談室が行っている「24時間子供SOSダイヤル」では、電話による相談を受け付けています。

高校生の場合は、中学生とは違って不登校が続くと進級や卒業に影響します。

### <高校における単位認定の仕組み>

高校では、各教科・科目について定められた時間数の授業を受け（履修）、その成果が十分であ

ると認められる場合には、各科目の単位が認められます（修得）。

各学校では卒業までに修得させる単位数を定めており、必要な単位の修得が認められない場合、卒業をすることができません。したがって、高校で進級したり卒業したりするためには、各科目の授業に参加して、定められた出席時数を満たすことが必要となります。

### ＜進路変更の選択＞

**県立高校では、転入学は、**主に、保護者の転勤等による一家転住や家庭環境の変化等があった場合に、現在在籍している高校と同一課程・同一学科の高校を原則として認められています。

転入学を希望する事由が正当なものであると認められれば、転入学検査を受検後、校長が認めることによって転入学が可能となります。

**編入学は、**主に、一度高校を退学した人が、かつて在学していた高校で相当単位を修得している場合に、学校が実施する編入学検査を受検後、校長が認めることによって可能となります。編入学は、原則として、第2学年以上の学年当初に行われます。

### ■ 定時制、通信制課程は、一人ひとりの生活スタイルで学べます

定時制課程（夜間部定時制高校、フレックス高校）では、働きながら学ぶ人や、学校以外で過ごす時間を有効に使いたい人が学んでいます。授業時間は、学校によって多少異なりますが、夜間部の多くは午後5時30分ごろから午後9時頃まで4時限で、修業年限は原則4年です。昼間部は午前9時ごろから、全日制とほぼ同じ時間帯で授業をしていて、修業年限は3年又は4年です。

**夜間部定時制の生徒の中には、**中学の不登校経験者がいますが、高校進学をきっかけに気持ちを切り替え、多くの生徒が不登校から回復して登校できるようになります。学校でも少人数クラスを編成して、さまざまな生徒の状況に対応できるように配慮しています。高校での学びの環境の変化が回復に大きく影響しているのかもしれません。

**フレックススクールでは、**一定の必修科目の履修を条件に個に応じた時間割を組むことができ、卒業に必要な単位（各学校が個別に定めています。）の修得を目指します。学年やクラスの枠がないので科目履修の自由度が高く、異年齢の人と一緒に授業を受けることとなります。

**通信制課程は、**自学自習が学習の基本の課程です。毎日登校して授業を受けるわけではなく、教科書などを使用して各教科を学びレポートを提出します。仕事やその他の事情で毎日通学することができない人などのために設けられています。修業年限は3年以上で、年齢・経験・学習動機・職業などの異なる生徒が学んでいます。単位制なので他の高校を中途退学した人でも、編入学後、前籍校で修得した単位等を活かせる場合があります。詳細は各校に問合せください。

### ■ 群馬県のハイスクールガイド

県内の公立高等学校や私立高等学校等について、様々な視点から調べられるようになっています。

[http://www.cms.gsn.ed.jp/nc/hsg/htdocs/index.php?page\\_id=0](http://www.cms.gsn.ed.jp/nc/hsg/htdocs/index.php?page_id=0)

### ■ 広域通信制高校・サポート校

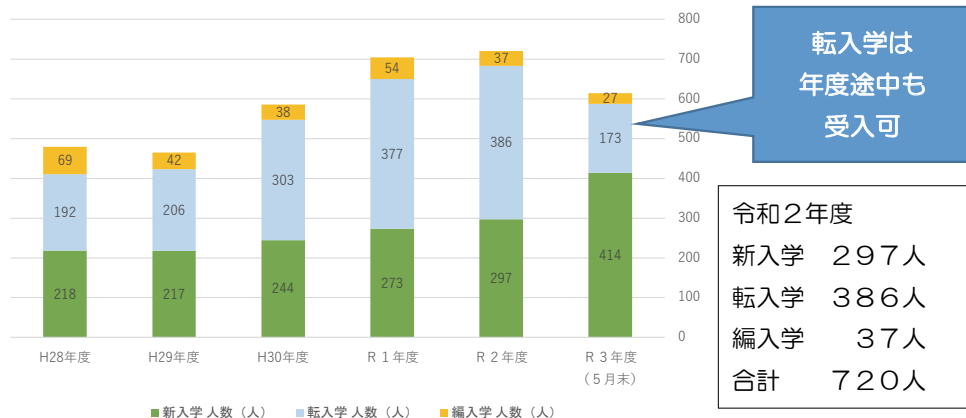
近年、広域通信制高校（私立通信制高校）・サポート校に進学する生徒が増えています。

広域通信制高校は、全国から入学できる通信制高校です。スクーリングは本校や分校以外に、協力校（他校の校舎を土日や夏休みなど空いている時期に借用）で実施しています。

サポート校は、私立通信制高校で学ぶ生徒を支援するための学びの場(教室)です。大きな駅など、交通の便が良い都市にあります(私立通信制高校とは別に学費がかかります)。

## 広域通信制高校(私立通信制)の現状

### 新入学・転入学・編入学者数の推移



令和2年度  
 新入学 297人  
 転入学 386人  
 編入学 37人  
 合計 720人

#### 【調査協力校】

クラーク記念国際高校、KTCおおぞら高校、第一学院高校、わせがく高校、鹿島学園高校、トライ式高等学院、ヒューマンキャンパス高校、飛鳥未来さすな高校、N高等学校、ルネサンス高校、NHK学園、成美学園、明達館高校、さくら国際高校、地球環境高校

#### <出願資格>

■ 新入学	中学卒業見込み、中学を卒業した者
■ 転入学	高校に在籍している者
■ 編入学	高校を中途退学した者

## 生徒が、楽しく・明るく・元気よく登校できる学校にしたい

私立通信制高校では、全日制高校のように毎日通学することができる「通学型スタイル」、自宅で「インターネットを活用して学ぶスタイル」等、レポート・スクーリング・テストで卒業を目指していく通信制課程の特長を活用し、自分の学び方・やりたいことに合わせた形で、勉強をすすめることができます。生徒たち一人ひとりが主役となって、楽しく、明るく、元気よく学べる学校にしたいと思っています。

「不登校児童・生徒が一人もいない学校」があれば、どのように取り組んでいるかを公開、表彰しても良いと思いますが・・・今までの私の経験では、不登校生徒がでるクラス(先生)は同じようになっていることが多いと思われます。オリエンタルランドの精神にある『自ら相手の気持ちになって、相手の立場に立って、共に考えてあげる気持ち・心』が先生たちに求められていると思います。学校は先生の為ではなく、生徒の為にあるということを理解しなければなりませんね。

群馬県私立通信制高校連絡協議会会長(クラーク高校前橋キャンパス校長) 清水洋さん

広域通信制高校への進学状況(県内在住者)の調査結果(県子ども・若者支援協議会)  
[https://www.pref.gunma.jp/03/bm01\\_00035.html](https://www.pref.gunma.jp/03/bm01_00035.html)